

5. 医学教育行政（文部科学省）*1

新木 一弘*2

1. 大学の多様な機能に応じたきめ細やかなファンディング・システムの構築

大学は、教育・文化、科学技術・学術、医療、産業・経済等社会の発展の基盤として中核的な機能を有する極めて重要な存在である。

高等教育への財政的支援は、国内的のみならず国際的な競争的環境の中にあつて、高等教育機関が持つ多様な機能に応じた形に移行し、機関補助と個人補助の適切なバランス、基盤的経費助成と競争的資源配分を有効に組み合わせることにより、多元的できめ細やかなファンディング・システムが構築されることが必要である。これにより、国公私立大学それぞれの特色ある発展と緩やかな役割分担、質の高い教育・研究に向けた適正な競争が目指されるべきである。

この観点から、文部科学省としては、大学における教育研究の質を確保するために、各大学の教育研究の基盤を支えるための資金（国立大学法人等運営費交付金、私学助成等）を確保するとともに、国公私立大学を通じた競争的・重点的支援の拡充により、積極的に改革に取り組む大学等に対してきめ細やかな支援を進めるために、「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援」の各プログラムを展開している。

2. 国公私立大学を通じた大学教育改革の支援

(1) 大学教育の充実—Good Practice—

文部科学省では、これまでに「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」及び「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」を実施し、平成 21 年度からは「大学教育・学生支援事業」のテーマ A「大学教育推進プログラム」において大学教育改革の取組を推進している。

これらのプログラムは、大学等が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革を進めている。この「優れた取組」を「Good Practice」略して「GP」と呼んでいる。

GP には 3 つの特徴がある。

1) 国公私立大学を通じた競争的環境

教育改革の参考となる「優れた取組」を見つけ出すうえで、国立・公立・私立といった枠にとらわれることなく広く公募し、申請のあった取組の中から特に優れた取組を選ぶこととしている。これは各大学等が積極的に教育改革に取り組むことのできる環境、つまり「競争的環境」を整えることで教育改革への動機づけ、インセンティブを与え、互いに切磋琢磨することを目的としている。

2) 第三者による公正な審査

「優れた取組」を適正に選定するためには「公正な審査」を担保することが必要であり、そのため、有識者や専門家等から構成される委員会によって、書面審査や面接審査などにより、公表さ

*1 Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

*2 Kazuhiro ARAKI 文部科学省高等教育局医学教育課

れた審査基準に基づいて、ペーパーレフェリーの専門の見地からの意見も踏まえ公正な第三者評価による審査を行っている。そして、選定した取組も選定しなかった取組も、ともにその理由を付して大学等に連絡している。

3) 積極的な社会への情報提供

我が国の大学教育改革を推進するという観点から、「優れた取組」を選定し財政支援するだけでなく、選定された「優れた取組」を全ての大学等の共有の財産として、多くの大学等が自らの教育改革をすすめる議論に活用してもらうため、「優れた取組」に関する情報を多くの大学等に積極的に提供することが不可欠であり、重要な意味を持っている。

医学教育に関連する取り組みについても、これらGPにおいて以下のとおり採択がされているところである(表1)。

(2) 国際的に卓越した教育研究拠点形成

グローバル化が一層進展し、国際競争が激化する今後の社会においては、国際競争力のある大学づくりをさらに推進し、世界に伍する教育研究を積極的に展開することが求められている。

このため、文部科学省では、「新時代の大学院教育」(平成17年9月中央教育審議会答申)や平成14年度から実施している「21世紀COEプログラム」の成果などを踏まえ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化するため、平成19年度より、若手研究者の育成機能の強化や拠点の国際性をより重視した「グローバルCOEプログラム」を実施し、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援している。

平成20年度に「医学系」の分野の公募が行われ、以下のプログラムを採択し、成果を上げている(表2)。

(3) 大学・大学病院が連携した医師等の養成システムの推進

さらに、または、上記のような幅広い学問分野をカバーするGP、COE以外にも、以下に掲げるとおり、特に医師養成及び大学病院の機能強化等に焦点を当てたプログラムが進められてきたところである。

・医師不足解消のための大学病院を活用した専門医療人材養成

産科・小児科などの医師不足を背景にした喫緊の課題である周産期医療に関わる専門的スタッフを養成する事業など、国公私立大学病院における取組を支援し、優れた専門医・看護師等の高度な知識・技術を有する人材の養成を図る。

・周産期医療環境整備事業

次代を担う若手医師の教育環境整備や女性医師の勤務継続・復帰支援等の教育指導体制の充実を行うなど、先駆的な事業を実施する大学病院を支援することにより、大学病院の人材養成機能を強化し、医師の過重労働の軽減や大学病院及び地域の周産期医療体制を構築する。

・看護職キャリアシステム構築プラン

大学病院看護部と自大学看護学部・看護学科等が連携して、体系立てられた臨床研修方法や体制等を学問的検討を行って開発し、臨床の看護職及び基礎教育課程への教育レベルを向上させることにより、効率的・継続的な専門能力の習得と向上を図り、国内の安心・安全な看護提供体制を構築する。

・大学病院連携型高度医療人養成推進事業

若手医師にとって魅力あるキャリア形成システム構築をし、質の高い専門医及び臨床研究者を養成し得る内容を有するプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学病院及び地域医療の活性化を促進し、将来の医療を担う医師養成の推進を図る。

・がん治療にかかる専門人材不足解消のための医療人養成(がんプロフェッショナル養成プラン)

がんに係る放射線治療、化学療法等の専門医療人の不足に対応するため、国公私立大学から申請されたプログラムの中から、質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成促進を図る。

表1 平成21年度 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】
大学教育推進プログラム選定取組一覧（医学教育関係抜粋）

設置形態	大学名	取組名称	取組内容
国立	群馬大学	人体解剖とCTの統合による先駆的医学教育	同一遺体について、遺体受入れ時に学内のオートプシシー・イメージング（Ai）センターでCT画像を撮影し、解剖実習時に画像と実物の人体とを対比しながら解剖するなど、画像診断学の基礎を解剖学と統合することにより、解剖実習時における人体構造の3次元的理解の飛躍的促進を目指す。
国立	東京医科歯科大学	コンピュータによる診療模擬実習の展開	情報通信技術の活用を図ることにより、医学科、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科の学生が共通、または相互に学ぶべき内容、症例等に関する教材を、学科を超えて共同開発し、全学科の学生が、時間や空間の制約なく学ぶ教育システムに発展させる。
国立	浜松医科大学	地域医療を志向する優れた医師の養成	地域保健を含めた地域医療を志向するような教育を行うことにより、優れた医師が地域医療に貢献する取り組みを行う。院内における診療だけではなく、訪問診療などの在宅医療や、健康教育・予防接種・行政との会議等の地域保健活動についても触れる機会を設ける。
国立	三重大学	保健医療の国際化に対応する医学教育	海外臨床実習を通じて明らかになった医学教育の課題に焦点をあて、新しい医療を実践できる医師を養成するため、「医療の国際化に対応する医学教育」の構築を目指す。
公立	名古屋市立大学	医療系学部連携チームによる地域参加型学習	医・薬・看護学部の連携により地域参加型学習を初年次教育および総合的な学習体験カリキュラムのコアとして導入し、社会的責任意識、課題探求能力、チームワーク能力、コミュニケーション能力を入学後早期から育成し、学部混合チームによる地域社会とのふれあいを通じ、現在のニーズの発見や課題解決に取り組む総合的な学習を充実する。
公立	和歌山県立医科大学	プログラマティズムの臨床育成プログラム	臨床医には、医学的知識・臨床技能（Hard-mind）とともに、患者に共感する能力（Soft-mind）が必要であることから、現在継続的に行っているSoft-mind教育とHard-mind教育の成果を実習の中で活かしつつ、最終的に臨床実習の場において融合し、多面的に評価することによって、患者が求める臨床医を養成する。
私立	昭和大学	チーム医療を実現する体系的学上課程の構築	本学の教育理念と医系総合大学の学習環境に根ざした体系的な学部連携の教育課程による高学年の効果的なチーム医療学習を実施することで、社会が医療の担い手に求めるチーム医療を実現する総合的な学上力を修得することを目的とする。
私立	東京歯科大学	個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成	コミュニケーション教育と医療倫理教育を更に推進させるために、ポートフォリオと「ペイシェント・コミュニケーション（P-Com）からの評価を含む360度評価を活用することによって、国民が求める理想の歯科医師、人間力豊かな歯科医師を養成するためのプログラムをニーズに応じて立案し、「TDC教育プログラムシステム」を確立する。
私立	東京薬科大学	薬事法改正に対応した薬剤師育成プログラム	2003年からの「セルフメディケーションを実現できる薬剤師」の育成手法の研究実績をもとに、本学に「セルフメディケーション学」を新設し、「セルフメディケーションを実現する薬剤師」の育成に必要な能力を体系的に育成する。
私立	日本赤十字広島看護大学	もつと世界とクロスする救済ナースの育成	赤十字の人道を教育理念として、①赤十字の理念や活動、②災害看護、③国際看護や演習、④赤十字看護・援助方法等、赤十字看護師の育成に特化する科目を設け、本学の現在の看護学部国際救済看護師育成のための基礎コース（救済コース）として体系的な教育課程を編成し、実施する。
私立	西南女学院大学	高齢者施設での福祉・看護・栄養の統合教育	関連施設である高齢者複合施設を利用し、福祉・看護・栄養・栄養の3学科の学生が、1年次には一泊二日の体験実習、4年次には1週間の統合実習を行うなど、チームアプローチによる実践的な学上力を培う統合教育を実施する。

表2 グローバルCOE 平成20年度選定拠点一覧(医学系抜粋)

設置形態	大学名	拠点のプログラム名称	中核となる専攻等名	拠点リーダー名	拠点内容
国立	東北大学	Network Medicine 創生拠点	医学系研究科医科学専攻	岡 芳知	分子、細胞、臓器、個体、環境といった多層にわたるシグナルネットワークを時間・空間的に統合し、疾患相互の結びつき(Diseaseome)を見出すことにより、シグナルネットワークを基盤とする革新的診断・治療・予防戦略といった新しい医学体系である「Network Medicine」を目指す。
国立	山形大学	分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築	医学系研究科医科学専攻	山下 英俊	21世紀COEプログラムで取り組んだ糖尿病、循環器疾患、呼吸器疾患、C型肝炎、パーキンソン病に加えて、がん基本法が成立し、向後、研究面でも重要な対象となる悪性腫瘍の分子疫学研究にも取り組み、世界でのこれらの疾患の分子疫学の中心となる拠点形成し、分子疫学の教育と研究を行う。
国立	千葉大学	免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点	医学薬学府先端生命科学専攻	中山 俊憲	本専攻を中心とした世界でも例をみない免疫システム統御による治療学の卓越した国際教育研究拠点を形成し、難治免疫関連疾患(アレルギ、癌、血管炎、動脈硬化など)を対象にした治療学研究を推進し、治療学研究を行う若手研究者の育成を目指す。
国立	東京大学	疾患のケケミカルバイオロジー教育研究拠点	医学系研究科内科学専攻	門脇 孝	革新的創薬を目指す疾患のケケミカルバイオロジーとそれを中心となつて担う人材の育成に取組み、これらを推進する医薬融合の世界的教育研究拠点を形成を実現する。個別的に発展させてきた研究プラットフォームを病態の統合的解明から革新的創薬をシームレスに実現する「疾患のケミカルバイオロジー」として共有化し、拠点リーダーのもと、全員参加による統合型疾患・創薬研究を推進する。
国立	東京大学	ゲノム情報に基づく先端医療の教育研究拠点	医学系研究所ヒトゲノム解析センター	清水 元治	ゲノム情報の応用が期待される二つの領域「オーダーメイド医療の実現と新興・再興感染症の克服」を柱として、これまで築いてきた国際的な研究拠点の特性を十分に生かした教育拠点の創出を目指す。ゲノム医学を基盤として、難治性悪性腫瘍に対する新規診断・治療・予防法開発や、個人に応じた医療の開発、感染症に対する予防・治療法の開発を担う人材を養成する教育拠点を形成する。
国立	東京医科歯科大学	骨の分子疫学科学の国際教育研究拠点	医科学総合研究科器管システム制御学系専攻	野田 政樹	世界で最も高齢化の進行する我が国にあって、人が生きる為に必須の骨の分子疫学を養成する若手研究者を養成する世界でも類ない国際教育研究拠点を形成することを目指す。
国立	名古屋大学	機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点	医学系研究科細胞情報医科学専攻	祖父江 元	21世紀COEプログラム「神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成」において確立してきた教育研究のコンセンサスを発展させ、「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」形成を目指し、神経と腫瘍に共通的に係る機能分子のさらなる探求、それに基づく融合型研究を推進、臨床応用への道筋を明確化する。そして、独創性と自立性を有し、俯瞰的見方のできる次世代研究者の育成を行う。
国立	京都大学	生命原理の解明を基とする医学研究教育拠点	医学系研究科医学専攻	成宮 周	基礎医学者と臨床医学者が双方向性に相互作用して一体となった国際的研究活動を行うとともに、異なる領域の統合によってイノベーションを創出する拠点を形成するといった、生命原理を解明する基礎医学から、疾患の病因、病態を解析し、治療法を開発する臨床医学を一連の学問的営みとして俯瞰的に理解できる、独創的な若手研究者を養成する。
国立	大阪大学	オルガネラネットワーク医学創成プログラム	医学系研究科予防環境医学専攻	米田 悦啓	細胞生物学、糖鎖生物学、感染症学を融合することにより、オルガネラネットワーク医学と呼ぶべき、新しい医学の分野を開拓し、その成果を基盤として、感染症、神経筋疾患、免疫疾患、癌、生活習慣病や老化など、従来の分子レベルの解析のみでは解明できない、多くの因子や環境が複雑に絡み合う病態の解明と治療に新たな視点の導入と展開を可能とすることを目的とする。
国立	神戸大学	次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点	医学系研究科医科学専攻	東 健	これまでのシグナル伝達医学の成果を踏まえ、全く新しい視点とアプローチにより、疾患の病態を捉え、その本質的理解、革新的医療戦略を構築、次世代の医学・医療のリーダーとなる人材を育成を目的とし、がん、代謝疾患、感染症、神経・筋疾患がお互いに四つ打ち核心メカニズムの解明、ならびに画期的な診断・治療・予防法の確立を目指すと同時に、シグナル伝達医学の教育研究国際拠点を形成する。
国立	長崎大学	熱帯病・新興感染症の地球規模統御戦略	熱帯医学研究所	平山 謙二	「見捨てられた感染症(デング熱、住血吸虫症等)」や「下痢症」などにも焦点をあて、熱帯病・新興感染症のうち、現在の地球規模の課題となつてい、あるいは開発の大きな阻害要因となっている感染症に對し、その制御と克服のための新戦略を包括的に構想し、その実行に必要な革新的技術の研究・開発を行うことを目標とし、その過程を通して将来の当該領域を支える有為な人材を育成する。
国立	熊本大学	エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点	エイズ研究センター	裕明 満屋	異分野の研究者が参画する部局横断的研究組織「大学院先端機構」の一つである「エイズ等新興再興難治性感染症に対する新たな治療法開発をめざした教育研究拠点」での研究成果を基盤とし、「魅力ある大学院教育イニシアチブエイズ抑圧」を目指した研究者養成プログラム」における人材育成の成果と実績を踏まえ、さらに国際的人材育成機能を一段と高めたエイズ抑圧のための国際教育研究拠点を構築する。
私立	慶應義塾大学	幹細胞医学のための教育研究拠点	医学系研究科生理学専攻	岡野 栄之	「幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点」で構築してきた人材育成戦略や研究資産を最大限に活用し、大学院研究科の改組により、継続的な教育研究体制の構築と上級生が下級生を育てることによる人材育成の好循環のための人材交流、多彩な人材の育成、国際的な共同体制構築のための人材交流を特徴とする教育研究拠点を形成を達成し、「幹細胞医学」と呼ぶ新しい学問体制を構築することを目的とする。

- ・社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（平成20年度までのプログラムであり、新規応募はなし）

地域医療等社会的ニーズに対応したテーマ設定を行い、国公私立大学から申請された取組の中から、質の高い医療人を養成する特色ある優れた取組について財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、社会から求められる質の高い医療人の養成推進を図る。

3. 各大学への期待

文部科学省としては、国公私立大学を通じた競争的な環境の下で、各大学が個性・特色を生かした優れた教育研究活動の取組を実施し、大学教育改革を展開することにより、大学教育の質の向上と更なる活性化を期待したい。